

【評価実施概要】

事業所番号	4070501590
法人名	有限会社 ダイテン福祉サービス
事業所名	グループホームなかよし
所在地	福岡県北九州市小倉南区東水町6-7 (電話) 093-953-0650

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】 (平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 8月 1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	7 人	常勤	7人	非常勤	0人	常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	400 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人おのクリニック、松井病院、かんだぎ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は平成15年に建てられた平屋造りである。玄関前はすっきりとしており、また広く、お茶や食事の時に日常的に活用されている。屋内は、高い天井や天窗があり、開放的な空間になっている。浴室の窓からは坪庭風に作られた空間の植木を眺めることができ、心が和む演出がなされている。
 家族の集まりとして「家族の会議」があり、来訪した家族がゆっくりと安心して意見が言える雰囲気を作っている。町内会に積極的に関わりを持ち、日常的な町内会の役割を担い、行事に参加して地域住民の生活に近い環境を持つようにしている。町内に事業所の各種イベントや行事への参加の呼びかけを行うなど、積極的に利用者とは住民との交流を図っている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題については、洗剤等の危険物の収納場所の見直しを行う等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全職員でミーティングで話し合い、管理者が意見を集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、利用者やサービスの内容、行事等の説明をしている。参加者からの意見も参考にしてサービスの向上を図っている。外部評価については、評価内容や結果は未報告である。運営推進会議では、外部評価への取り組み状況や評価結果についても報告してほしい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>毎月の家族来訪時に、管理者・ケアマネージャー・担当者による「家族の会議」を持ち、家族の意見や要望を聴き、話し合いを行っている。来訪が困難な家族に対しては、電話で意見を聴くようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入している。職員及び利用者は、広報を回覧したり、地域行事に参加している。また、地域住民が事業所の行事に参加したり、ボランティアを受け入れる等、地域との交流に積極的に努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心、信頼、満足」という事業所独自の理念があるが、地域密着型サービスの視点が含まれていない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝・夕のミーティングの時に、全職員で唱和している。利用者・家族からの安心、信頼、満足を得るように希望や要望、悩み事などに傾聴し、実践できるように取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。職員及び利用者は、広報を回覧したり、地域行事に参加している。また、地域住民が事業所の行事に参加したり、ボランティアを受け入れる等、地域との交流を積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、全職員でミーティングで話し合い、管理者が意見を集約している。前回評価での改善課題については、洗剤等の危険物の収納場所の見直しを行う等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的開催している。会議では、利用者やサービスの内容、行事等の説明をしている。参加者からの意見も参考にして居心地のよい共用空間作り等、サービスの向上を図っている。外部評価については、評価内容や結果は未報告である。	○	運営推進会議では、外部評価への取り組み状況や評価結果についても報告してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政へ利用者の福祉制度の利用やボランティアの紹介について相談する等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットを基にミーティング等で全職員で学習して、周知を図っている。管理者及び全職員は、家族等へ制度について説明できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便りを発行している。毎月の家族来訪時には家族の会議を持ち、利用者の暮らしぶりや身体状況などを報告している。緊急時や状況の変化時等は、電話で報告を行っている。金銭管理については、月1回、金銭出納帳を提示して説明している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会議」があり、来訪した家族がゆっくりと安心して意見が言える雰囲気を作っている。苦情相談窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明している。家族の希望や要望に傾聴し、介護計画等に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所の内外で、職員一人ひとりと時間をとって話を聴いたり、懇親会を持ってストレスを溜めないようにする等、離職を抑える努力をしている。やむを得ず職員を交代する場合は、引継ぎ期間を十分にとり、利用者へ不安を与えないように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、お年寄りが好きな人、お年寄りとの関わりの経験のある人、やる気のある人などを基準に、性別や年齢に関係なく採用している。配置、昇進、教育訓練、定年、退職において、差別なく誰もが安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する外部研修を受講した職員は、ミーティング等で研修報告をし、他の職員へ周知を図っている。また、管理者は身体拘束に関する資料を作成し、ミーティング等で職員へ話している。</p>	○	<p>人権研修等の報告書や会議録を整備し、また、研修資料は、職員がいつでも確認できるように事業所で保管してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、全職員が外部研修を受ける機会を確保している。外部研修に参加した職員は、他の職員へ報告を行い、共有できるようにしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新規採用者があるときは地域の馴染みの同業者と連絡を取り、管理者も一緒に他事業所の見学学習を実施し、交流を図っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用希望があれば体験入居を勧め、本人・家族が安心して入居できる体制をとっている。やむを得ず即入居になる場合でも、家族に見学してもらい、納得して入居できるよう努めている。状況に応じて、病院や自宅訪問等による面接も行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、個々の役割が発揮できる場面を提供しつつ、感謝の言葉を忘れないようにしている。利用者は、入浴介助している職員を労ったり、買物の荷物をもったり、忙しい夜勤者の朝食作りを手伝ったりする等、お互いが支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>できるだけ本人本位に過ごせるように、思いや希望を聴いている。意思疎通が困難なときは、時間をかけて話を聴いたり、表情や行動で読み取るようにしている。その他、介護記録や家族から情報を得るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は、管理者、本人、家族、担当職員の意見を聴きながら、一人ひとりに合った介護計画を作成し、家族に説明して、同意の署名や押印を受けている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っているが、状況の変化に即して、随時見直しを行っている。緊急時は、家族に電話連絡を取って説明している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院した場合は、早期退院に向けて病院及び家族と情報交換を行い、連携を図っている。また、受診や治療に付き添う等、医療処置を受けながら入院せずに生活の継続ができるように支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等から、かかりつけ医や希望する医療機関等を把握し、希望に沿った受診や治療ができるように支援している。必要に応じて、提携医療機関の往診や緊急時の受診が可能である。受診の結果は、家族に電話で伝えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の介護のあり方について、方針がある。家族の会議等、機会を捉えて家族に希望を聴き、また事業所の方針も伝えている。利用者や家族、医療機関、職員の全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前でのトイレ誘導やあからさまな介護をするような言動が無いように注意している。また、家族の来訪時等には、他の利用者の個人情報に関しての話等をしないように配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、起床や散歩、外出、買い物等、利用者一人ひとりの希望にそって柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に味付けや準備、配膳等を行っている。職員も同じテーブルで同じものを食べ、介助が必要な人には、さりげなく支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、利用者の希望に合わせて毎日入浴できるように支援している。入浴拒否する場合は、様子を見ながら促す等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、料理、木の剪定、買い物の際の荷物持ち等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割の支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や天候等に配慮しながら、毎日の散歩や週2回の買い物を支援している。また、月1回の夕食や年1回の一泊旅行等も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関等は施錠していない。職員は鍵をかけることの弊害について理解している。職員は利用者の外出傾向を把握しており、帰宅願望等が見られる時は、納得するまで一緒に出かけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署及び地域住民の協力を得て、防災訓練や消火訓練を実施している。本番の訓練に向けて、利用者と職員と一緒にリハーサルも行っている。	○	マニュアルを整備してほしい。また、非常食や備品を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個人のバイタルチェック表に記録して把握している。栄養管理については、利用者の要望に対応しながら、主治医に相談して献立を作成している。	○	水分摂取量の記録を整備してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓にはロールカーテンを取り付け、直射日光を避けられるように工夫している。空調機を設置し、室内温度を適温に調整している。不快な臭気や音はなく、利用者の作品を飾り、生活感に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、家族の写真等を持ち込み、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。